

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

釜石市長 小野 共

市町村名 (市町村コード)	釜石市 (211)
地域名 (地域内農業集落名)	栗林地区 ( 上栗林集落、沢田集落、砂子畑集落 )
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年9月10日、10月15日、11月26日 (第3回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

市内最大規模の水田地帯であり水稲専作を基本とする地域であり、兼業農家率が高いことから省力化・効率化を図りながら水田の維持管理を行っていくことが課題。

(2) 地域における農業の将来の在り方

地域の基幹作物の「水稲」については、効率的な生産体系や作業受委託の推進を図るほか、その他の品目として「梅」、「柿」、「落花生」の作付を推進する。また、中山間・多面的活動組織を中心とした農地維持を継続する。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	44.3 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	44.3 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地およびその周辺の農地を農業上の利用が行われる区域とする。  
その他の地域については、現状で耕作している農地及び一定の団地を形成する農地が存在する区域とする。

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
現状の耕作者を担い手とし、現状の耕作状況の維持を基本としつつ、農業委員や農地利用最適化推進委員と調整しながら、必要に応じて集積・集約化を進める。
(2)農地中間管理機構の活用方針
農振・農用地については、原則として農地を機構に貸し付けていくこととし、担い手の経営意向を鑑みながら、段階的に集約化を進める。
(3)基盤整備事業への取組方針
生産効率の向上や農地集積・集約化を図るため、畦畔の除去等の軽微な基盤整備も検討する。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
兼業農家も含めた担い手・後継者の育成を図る。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
特になし。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input type="checkbox"/>	①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/>	②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/>	③スマート農業	<input type="checkbox"/>	④輸出	<input type="checkbox"/>	⑤果樹等
<input type="checkbox"/>	⑥燃料・資源作物等	<input checked="" type="checkbox"/>	⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/>	⑧農業用施設	<input type="checkbox"/>	⑨その他		

【選択した上記の取組方針】

⑦保全・管理等

中山間活動組織(栗林集落)、多面的活動組織(栗林集落)を中心とし、農地や水路等の農地周辺の保全・管理に取り組む。